

夜回り

山田先生

西陵商ラグビー部元監督

▶ 7 ◀



実は朝鮮籍…重い口を開いた母親

▼山田耕二(やまだ・こうじ) 名古屋市出身の73歳。元ラグビー日本代表。西陵商(現西陵)監督として1997年、全国高校大会で愛知県勢として初優勝。豊田自動織機総監督を経て、現在は愛知県弥富市で老人ホームの理事長を務める。

家庭訪問で初めて知る事実もあった。例えば、A君は朝鮮籍を持つ在日朝鮮人だった。高校には「通名」で通っていた。学校に戸籍を提出するわけではないので、私自身、彼が朝鮮籍だと知らなかった。

私は朝鮮半島の方々に非常に感謝している。日体大2年の時、学生日本代表の遠征で韓国に行ったときのこと。試

合で鎖骨を折り、現地の病院に1カ月近く入院した。当時、日韓は国交正常化に向けて動いている真っ最中。病院内は「日本代表選手にけがをさせてしまった。大変なことになった」と大騒ぎ。看護師からは手厚い看護を受け、ソウル市長までもが見舞いに来た。

受けて、私はすっかり回復した。家庭によっては、玄関先た。当時から朝鮮民族への差別意識を持った人はいた。私はこの時から「どうしても何かお返しがしたい、力になりたい」と思っていた。

私が、前述した韓国での厚遇の話をすると、ほっとした表情をされた。そこで入院当時に看護師に教わった当時の韓国のヒット曲「ノーランシヤツ」や民謡の「アリラン」を口ずさむと、大変喜んでくれた。

この日をきっかけに関係はさらに深まり、家庭訪問の度にキムチ鍋なんかを、ごちそうになるようになった。A君の就職先も、外国籍でも分け隔てなく採用してくれる企業を家族と一緒に探し、無事に入社できた。学校では見えない家庭での悩みごとにまで、あえて一歩踏み込むことで、より深い信頼関係を築ける。

時間をかけて築いた信頼関係

時間をかけて築いた信頼関係